

アカデミック・サポートセンターニュース

第5号 2012年 9月

アカデミック・サポートセンター(ASC)の近況などを報告します。第5号では、2012年度第1学期のASCの利用状況を報告します。また、第1回アカサポ・コラムを掲載します。

2012年度第1学期のASC利用状況

★進路・修学相談 (4月-8月)

- ・およそ半数が履修に関する相談。また、学部の研究内容と進路についての質問が、約3割を占める(図1)。
- ・総合入試入学者(理系+文系)の相談人数がおよそ7割(図2)で、今年度の全入学者に占める総合入試入学者の割合より大きい。

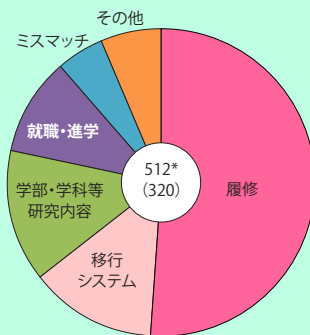


図1) 相談内容別利用数

- A) 履修
 - ・「履修上限」や「自由設計科目」について
 - ・〇〇学部に進む上で、履修すべき科目は?
- B) 移行システム
 - ・移行点等に関する質問
- C) 学部・学科等研究内容
 - ・□□学部の研究内容について
 - ・特定分野を学べる学部を知りたい
- D) 就職・進学
 - ・各学部の就職や進学状況について
 - ・資格を取得するための履修科目について
- E) ミスマッチ
 - ・他系移行や転部・転学科について
- F) その他
 - ・留学、PCの使い方など

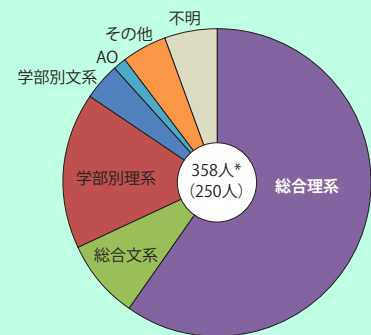


図2) 入試形態別利用人数

*延べ利用数・人数、()内は昨年度同時期実績

★学習サポート (4/10-8/3; 授業期間)

- ・練習問題等についての質問が約半数、ついで教科書等の内容について相談に来る学生が多い(図3)。
- ・科目では、数学や物理、化学の質問が多く、全体のおよそ8割を占める(図4)。
- ・理系の学生からの質問が多い。また、2年生以上からの相談も寄せられている(図5)。

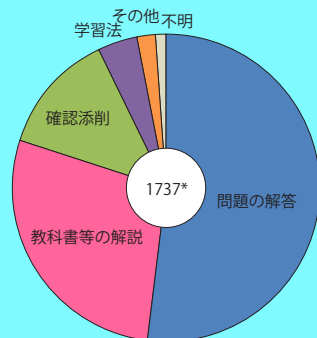


図3) 相談内容別利用数

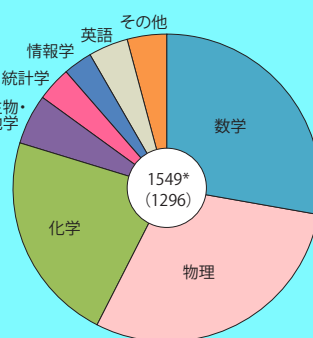


図4) 科目別利用数

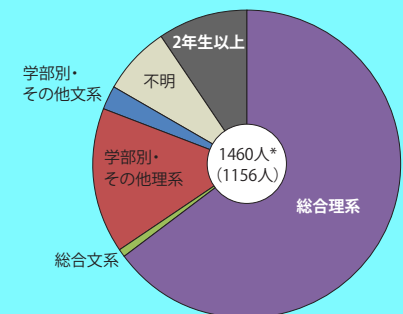


図5) 入試形態別利用人数

*延べ利用数・人数、()内は昨年度同時期実績

2012年度第1学期のASCの利用者は、進路・修学相談、学習サポートともに、昨年度同時期より増加しています。相談内容、利用目的や利用者の属性(入試形態等)は、昨年と同様の傾向が見られます。

第2学期は、総合入試入学者の志望調査・登録、一部の学部別入試入学者の学科等選択が行われ、これに関連して、移行ガイダンス等が開催されます。進路・修学相談の重要性が増す時期と考えられます。先生方におかれましては、学生に積極的にASCを利用するようご提案頂ければ幸いです。

第2学期の学習サポートは、10月1日開始予定です。多くの学生の利用はもちろん、多様な学生(修学困難な学生、休学後の学生等)の利用を促したいと考えています。

周りにこのような学生がおりましたら、学習サポートの利用を勧めて頂けると幸いです。



第1学期ある日の学習サポート室



アカサポ・コラム Academic Support Center Column vol. 1

アカサポ・コラムはASCスタッフの生の声をお届けします。第1回は、アカデミック・アドバイザー*の大畑先生のコラムを掲載します。*ASCでは、学部横断的な進路相談に対応するアドバイザー(兼任教員)を配置しています。

「アカデミック・アドバイザーって何なの？」

大畑 昇

アカデミック・アドバイザー
歯学研究科 特任教授



現代の消費社会では、人は忙しく毎日を送っています。新しい物がどんどん現れ、人々の考え方もつぎつぎと変わっていくようです。「忙しい」、「忙しい」といっている間は気もまぎれますが、ふと立ちどまってみると一寸先は解らないという不安が押しよせてきます。多忙は、人に錯覚を惹き起こします。個人の日常生活も社会全体もあわただしいと「生活に充実感がある」と錯覚してしまうものなのです。「専門外の本を読む暇は無い」とか「専門外の人と話しても役に立たない」と思い込んでしまうのです。しかし、筆者が学生時代に、最も多くの読書をし、また夜中まで夢中で人と話をしたのは、いつも定期試験直前であり、専門外の本を読んだり、専門外の人と話したりする暇は全然ないはずの時でした。人の人生は、どのような

本と出会うか、あるいは誰と巡り会うかによって決まるといえます。それは必ずといっていいほど自分の専門外の本であり、他分野の人でした。少なくとも筆者の場合はそうでした。

一方で、人は他人から物事を相談された時、自分の体験と学問の範囲でものをいいたがります。その範囲を超えたことに遭遇すると、人は「ウッソー!(否定)」、「ホントーッ?(疑惑)」、「信じられない。(不信)」とコミュニケーションの断絶的態度に出るそうです。コミュニケーションの断絶的態度とは、第三者が客観的立場で、あまり他人事(のトラブル)に関わりたくないという時の態度なのです。「無責任な発言はしたくない」とは「責任を取りたくない」と同義といえます。「自分の専門分野だからこそ責任の取れる発言を

しなければならない」と専門家は錯覚してしまうのです。でも、相談する人は、他人には「責任を取れる発言」なんて期待してはいないのです。自分の考えを整理し、まとめるために相談しに来るのです。あるいは、自分が何をしたいのかが解らないからこそ相談に来るのです。人間は自分自身のことが一番解らないといわれています。だからこそ人生で一番難しいのが「悟る」ことなのです。

実は、筆者がこのことによく気づいたのはつい最近のことです。アカデミック・アドバイザーになって2年目ですが、ようやく自分の専門外の話でも興味を持って聴くことが出来るようになりました。そうになったのは相談に来てくれた学生さん達のおかげだと感謝する今日この頃です。

進路相談会の開催について

ASCは9月26日(水)の「学部・学科等紹介」に合わせて、進路相談会を開催します。進路相談会では、アドバイザーに、予約なしで直接質問することができます。

・場所: E211室

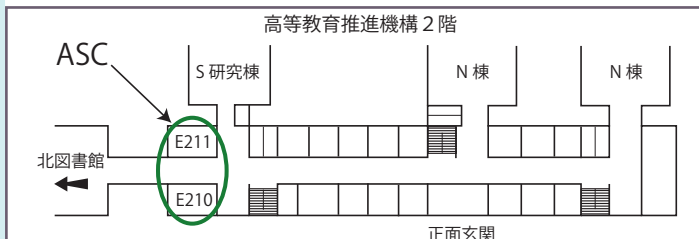
・時間: 9:00-17:00(アドバイザー対応時間は以下参照)

★望月先生【文系一般】 ★板垣先生【理系一般】 ★大畑先生【医歯薬系】

10:00-13:00

12:00-15:00

12:30-15:30



アカデミック・サポートセンター

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目
北海道大学 高等教育推進機構 2階
E210(相談) / E211(学習サポート)

T E L 011-706-7526

E-mail asc@high.hokudai.ac.jp

U R L http://asc.high.hokudai.ac.jp/ 2012年9月13日発行

